



同窓会報

平成20年度春季号

巻頭言

会長 西澤 潤一



すべての分野で見通しがなく、どうなるのか分からなくなってしまう。しかし、石原知事が云われたゲオルグと云う作家の言葉「たとえ地球が明日失われることにならうとも、今日は黙々としてリノゴの木を植えてつづける。」を思い出すまでもなく、生徒諸君は、心を迷わせることなく平穏に成長して立派なエリートとなって、将来社会を支えてくれるようになって貰わねばならないし、その時迄我々も精一杯頑張つて、生徒諸君のみならず若い人達に不安なく勉学をつづけさせるようにしなくてはならないと考える。ゲオルグについて確認しよ

うとしたが、文学事典にはゲオルグと云う哲学者が二人紹介されているだけで、私の記憶にあった「二十五時」を書いたゲオルグなるルーマニアの文学者と共に、何れの人か、或いは全く別人なのか見当もつかない。

然し、現状に於いては、とても言葉程のことは出来ておらず、矢張り、早く悟りを開いて如何なる緊急事態にならうとも、平穏に処置して貰いたいと考える。

しかし、早く我々の社会の協同作業に参加して貰う日迄、より高く、より強く成長して貰っていることを祈らねばならないのであろう。また、我々も、しっかりと勉強して貰わなければならぬ。青少年にまで、余計な心配をかけないで充分安心の出来る対策を実現して余裕のある勉学と健康な生活が出来るように努力をしてゆかなければならない。

三年前に台湾政府からの要請を受け、開始される教育改革

革の皮切りの講演を行なった。先づ大変気持ちのよかったことは、参加していたのが上級校ばかりでなく、小学校から大学までのすべて校長であった。大体上級校になるにつれてレベルが高くなるのは知に關することであって、教育としては、初等教育の方が遙かに基本的であるから、人間教育の観点からすればより重要と考えるべきではない。従って、知的に高い水準を要求されることが多い上級教育が、より高水準と考えることは果して正しいと云えるのだろうか。

次に、私が強調したのは、学校教育が始まったのはアジアでは西暦紀元前四世紀以前のことであったことは孟母三遷の教えにも述べられているところだが、欧州では北イタリアのボローニャで若者が集まって専門家からいろいろと知識を授けて貰おうではないかと云うことになり、先生の選定から謝金まで自分達で決めたと云われているが、その間約千五百年ある。

教育と云う複雑な人文科学の性質上、結論は、そう簡単に出ないのは当然で、極端に

発行 宮城県仙台第二高等学校
同窓会事務局
仙台市青葉区川内瀬橋通一
番二二一五六一(直通)
印刷 創文印刷出版株式会社
仙台市青葉区春日町八番二四号

平成20年度 同窓会総会のご案内

1. 日 時：平成20年7月5日(土) 総会17時(受付開始は16時30分) 懇親会18時
2. 場 所：江陽グランドホテル
3. 懇親会費：6,000円
4. 申込締切：6月25日(水)
★懇親会費は当日、会場でお支払い下さい。
★出席申込は、下記の申込先に、FAX又は電話でお願いします。
5. 申 込 先：〒980-8631 仙台市青葉区川内瀬橋通1
仙台二高同窓会事務局 TEL 022-221-5651 FAX 022-221-5686
6. 当 番 回 期：高19、31、32、43、44回

この回期の方々は常任委員を中心にご協力をお願いいたします。

同期の方、お誘い合わせの上、
多数ご参加下さい。

云えばその社会運営自体を以て結論を出して来たとも云えよう。つまりローマ帝国は滅亡したからローマ帝国の制度がよくなかったと云う類いである。それだけで全面否定をすると云う事は出来ない。部分否定であるし、複合否定であることもあらう。帝国の命運を賭け、国民の多くの生命をすべからず捲き込んで行かう盛大な実験であるから、事後分析も簡単ではない。何れにせよ、どちらがよかったかと云うことも含んで人間社会構成以来、懸命の努力が行なわれて来た。従って教育はその国民の性格感性に依存するところが多い筈である。この逆に、そんなことは無視して、人間一人一人が生きてゆくのに共通のところだけは保証するが、それ以外のところは無視すると云う乱暴な考えかたまでが横行する。しかし誰が考えても、自己の知性だけでは他は勿論自己すらも自制できないのは当然である。共に地球上に生きてゆく以上、逆に各自が自己の長じたところを大いに成長させて、他に利用してもらふと云う考え方も大いに取り入れるべきではないか。従って教育のあり方も各民族性に基いた各々の長所を伸ばしてゆくと云うものであって然るべきではないかと考えている。

一昨年二〇〇六年ドイツの申入れによって日本ではドイツ人と云う呼名で両国の文化交流を盛んにする試みが行なわれた。一ツ橋の学術交流センターで行なわれた統合討論会で、日本側教授から英語の教育の強化を主張しなければならぬのではないかと云う問い掛けに対して、言語よりも大切なのは中身であると云う強烈な反駁があり、教育の最も大切なことは文化の伝承にあるのであって、知識の伝受ではないと云う痛烈なパンチが、現在の知識の伝承とされて暗記教育に流れている教育に根本的批判があったことが忘れられない。

知識重視は米国の一部で非常に発達した考えかたである。二百年程前にメイフラワー号によって英国清教徒が米国東岸ニューイングランドに移住して以来、米国建国の苦闘が始まったのだが、その過程の中で、多種族民族に共通な文化の建設も始まった。そのうちのひとつが、プラグマティズムであって、実用を満足することを優先することを考えたのは新興国家としては当然である。すぐ要る知識だけを取り敢えず充足させると云うのが、このグループの人達の考え方である。創造などを目指す場合は、間に共通の考えかたによる知識の組織化体系化を必要とする。思索が重要になるこれがむしろアジアのヨーロッパの教育には多分にある。

ご挨拶



校長 庄 司 恒 一
(高22回)

校内の若葉もひときわ目に眩しい季節となりました。同窓生の皆様方には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、口頃より母校の教育活動に對しまして一方ならぬご支援、ご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

私こと、四月一日付けで宮城県教育研修センターから異動し、母校に奉職することになりました。微力ではございますが、生徒、教職員とともに母校発展のため、努力して参る所存でありますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、今年度は入学式に麻喜宏雄副会長様のご臨席を賜り、三一九名の新入生を迎え、新学期がスタートいたしました。早速、応援団幹部の指揮の下、入団式が行われ応援練習も始まりました。そして、全校一丸となった力強い応援

にも後押しされ、第63回対一高硬式野球定期戦は、春季県大会出場を決め攻守に勝る二高が5対0で快勝しました。三年振りに優勝旗を手にし優勝回数も五分となりました。

優勝報告会も行い、赤々と燃え上る炎のものがグラウンドいっぱいになり、勝利の歌が夕空に響き渡りました。この勢いが来る三部・軟式野球定期戦は勿論のこと、今後の学校生活全般にも繋がるものと期待をしております。

また、三年生の鈴木裕太君が、高校生による「国際化学オリンピック」日本代表の四名に入り、公立校からはただ一人、七月にハンガリーで開催予定の大会に参加することになりました。最終選考には本校生二名が残りましたが、このこと自体素晴らしいことであり、次に続く生徒が現れるのが待ち望まれるところで

これら生徒達の活躍は、「文武一道」の精神を具現化した快挙であり、広く県内外に仙台二高の名を知らしめるに十分な成果であったと思っております。

先日、図書室で卒業アルバムを見つけました。ページを捲りながら、在学当時のことが走馬灯のように駆け巡りました。中でも、二高八景の一つ「白雲崖」の桜が春風で廊下に舞い込み、雪で覆われたように白くなっていた光景が思い出されました。今年も見事に花をつけましたが、当時のからの老木と新たに植えられた若木とが織りなす光景を目にし、本校の長い歴史と伝統を受け継ぎ伝えることの責任の重さに思いを致したところでありました。

最後になりますが、同窓会の今後益々のご発展と、同窓生の皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、母校に對しまして変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。近況報告を兼ねてのご挨拶とさせていただきます。

平成19年度事業報告

5月26日	土	評議員会	北陵館	14時
5月31日	木	同窓会総会 第1回当番回期打合せ (高18, 30, 31, 42, 43回)	北陵館	18時30分
6月1日	金	同窓会春季号 発行		
6月22日	金	同窓会総会 第2回当番回期打合せ (高18, 30, 31, 42, 43回)	江陽グランドホテル	18時30分
6月30日	土	同窓会総会 懇親会	江陽グランドホテル	17時
9月17日	月	臨時評議員会	北陵館	14時
11月13日	火	P T A・同窓会合同新年会 第1回当番回期打合せ (高19, 31, 32, 43, 44回)	北陵館	18時30分
12月1日	土	同窓会報第40号発行		
1月4日	金	P T A・同窓会合同新年会 第2回当番回期打合せ (高19, 31, 32, 43, 44回)	ホテルメトロポリタン仙台	18時30分
1月11日	金	P T A・同窓会合同新年懇親会	ホテルメトロポリタン仙台	18時20分
2月22日	金	仙台二高クラブ活動後援会費への寄付		
2月29日	金	同窓会入会式	仙台二高講堂	10時
定例・臨時理事会 (4/12, 4/28, 5/10, 5/26, 5/28, 6/21, 7/2, 8/9, 9/6, 9/21, 10/12, 11/16, 12/18, 1/29, 2/19, 3/25)			北陵館	

平成20年度事業計画

5月14日	水	臨時評議員会	北陵館	18時30分
5月31日	土	評議員会	北陵館	14時
6月5日	木	同窓会総会 第1回当番回期打合せ (高19, 31, 32, 43, 44回)	北陵館	18時30分
6月1日	日	同窓会春季号 発行		
6月22日	金	同窓会総会 第2回当番回期打合せ (高19, 31, 32, 43, 44回)	江陽グランドホテル	18時30分
7月5日	土	同窓会総会 懇親会	江陽グランドホテル	17時
7月		仙台二高クラブ活動後援会費への寄付		
12月上旬		P T A・同窓会合同新年会 第1回当番回期打合せ (高20, 32, 33, 44, 45回)	北陵館	18時30分
12月1日	月	同窓会報第41号発行		
1月中旬		P T A・同窓会合同新年会 第2回当番回期打合せ (高20, 32, 33, 44, 45回)	(ホテルメトロポリタン仙台)	18時30分
1月23日	金	P T A・同窓会合同新年懇親会	(ホテルメトロポリタン仙台)	18時20分
2月27日	金	同窓会入会式	仙台二高講堂	10時
定例理事会 毎月開催予定			北陵館	

(注) 以上の事業報告ならびに事業計画案は、毎年定例となっている事業に関するものである。
(共学化関連の事業については、総会で報告される)

P T A・同窓会

合同新年懇親会報告

去る平成二十年一月十一日

ホテルメトロポリタン仙台を会場にして、恒例のP同窓親会が開催されました。

西澤潤一会長、ご来賓と

して元校長の高橋清久先生、

牛田敏先生をお招きし、P T A・同窓会合わせて百二十名

を超える盛大な会となりました。式次第をここに掲載いたします。

○P T A研修会
(十六時三〇分)

講師 川野目亭南天氏
(今野家一門噺家)

○新年懇親会

(一八時二〇分)

① 開会の辞
同窓会事務局長

② 校歌斉唱
佐々木文朗

③ 挨拶
学 校 長 柏葉 浩明
P T A 会長 権 奇哲

④ 米賓紹介
同窓会会長 西澤 潤一

⑤ 在仙会員叙勲者へ記念品贈呈

⑥ 幹事代表挨拶
本郷 道夫 (高十九回)

⑦ 乾杯
笹氣光寿郎 (高十四回)

⑧ 祝宴
(アトラクション・福引き)

⑨ 応援歌斉唱
P T A 副会長 加藤 幹夫

⑩ 万歳三唱
P T A 副会長

⑪ 閉会の辞
同窓会副会長

〈当番回期〉
高十九・三十一・三十二
四十三・四十四回
笹氣 光祚

同窓会入会式厳粛に挙行！

去る二月二十九日二高講堂にて高校六十回生の同窓会入会式が挙行されました。新たに任命された評議員と常任委員及び名簿委員は次の通り。
代表挨拶を柴又賢史君が行いました。

○常任委員

三年一組 高須翔太郎

三年二組 蜂谷 佑樹

三年三組 村山 寛雄

三年四組 木田 遼太

三年五組 高橋 翔平

三年六組 一條 司

三年七組 熊本翔太郎

叙勲者

旭日小綬章

青嶋 章介
(高8回)

加藤 栄一
(高6回)

○評議員

三年七組 柴又 賢史

○名簿委員

三年六組 一條 司

支部総会 同期会 開催報告

第十回関西西北陵会 総会

小松 寛明（高33回）

平成二十年三月八日土曜日、
関西西北陵会総会および懇親会



を開催いたしました。柏葉浩明校長先生（当時）、笹気光祚同窓会副会長、佐藤勝関西宮城県人会会長に来賓としてご出席いただき、二十六名の会員が出席いたしました。

関西西北陵会は、お蔭様をもちまして平成十一年の

発足から十回目を迎えることができました。節目の年として、今回はより多くの同窓生が参加し易いように大阪の中心地のひとつ、梅田で開催し、やや豪華な会にする、ということを決めました。昨年十月の幹事会で決定いたし

ました。齊精一氏（高校20回、阪急不動産専務）の尽力により梅田の阪急グラントビルにある会員制クラブ「関西文化サロン」で開催することができました。会場は大阪市内が一望できる好スポットです。

総会での報告事項としては役員改選の件があります。会長代行の時期も含めて五年に

わたり会長を務めさせていただきました船木良保氏（高校4回）が退任され、あらたに

星三男氏（高校6回）に就任いただきました。齊精一氏、

木下彰氏（高校20回）、川幡公章氏（高校26回）には幹事として加わっていただきました。

副会長の麻喜宏雄氏（高校9回）、渡辺敏雄氏（高校20回、会計監査）、柴崎真吾氏（高校21回、総務）、菊池

輝氏（高校41回、会計）、小松寛明（高校33回、総務）は留任です。

紹介に引き続き、外務省参

与で前関西担当大使の天江喜七郎氏（高校14回）に「今日の

世界情勢と日本外交の課題」と題してご講演をいただきました。

アメリカ大統領選を筆頭に各国で選挙が相次いで実施されるなか外交戦略はどう

なるのか、ブラジル・インド・中国の台頭、資源ナショナリズムの激化などの問題を前に

中長期的な国際戦略を日本はどのように打ち立てるべきなのか、といったことについて

長い海外駐在のエピソードも交えた興味深いお話をいただきました。

親睦会は最長老の進藤信一氏（中学43回）の乾杯の音頭で始まり、初参加や久方振りの参加となった同窓生の紹介がありました。間もなくして「さんさ時雨」をかの進藤先輩が歌いだされ、昔ながらの同手拍子で応じ宴たけなわとなりました。元応援団、太田一紀氏（高校14回）のエールに続き凱歌とともに歌いお開きとなりました。

個人情報保護法の影響もあり同窓生の動向もつかみづらい状況です。近畿一円（京都・滋賀・大阪・兵庫・奈良・和歌山）、またこの近隣に在住

の同窓生の皆さん、この一帯の大学や大学院に進学された同窓生の皆さん、ご一報ください。総会以外にミニ宴会もあります。

仙台二高に赴任して以来、桜の咲き始める頃になると毎年東京へ現役部員を連れて遠征に出かけております。春は

全国各地の強豪校が集まり、それぞれがインターハイを目指し、しのぎを削り、文字通りのデスマッチを繰り広げる時期でもあるのです。我々にとっては虎穴に入り込むようなものですが、それだけに得るものも非常に多いと言えます。

この貴重な経験が得られるのもバスケットボール部OB会「北陵会」による物心両面からの支援のおかげであります。この場をお借りして数々のご恩に感謝申し上げますとともに、今春の東京遠征の際に開催していただきました激励会の報告を致します。

時は三月三十一日、東京・新宿区役所近く。仙台からこの会のために萩原邦明コーチ（高4回）がお越しになり、

北陵会現会長佐藤宣男さん

バスケットボール 部OB会「北陵会」 開催報告

藤垣 庸二（高36回）

仙台二高に赴任して以来、

桜の咲き始める頃になると毎年東京へ現役部員を連れて遠征に出かけております。春は

全国各地の強豪校が集まり、それぞれがインターハイを目指し、しのぎを削り、文字通りのデスマッチを繰り広げる

時期でもあるのです。我々にとっては虎穴に入り込むようなものですが、それだけに得るものも非常に多いと言えます。

この貴重な経験が得られるのもバスケットボール部OB会「北陵会」による物心両面からの支援のおかげであります。この場をお借りして数々のご恩に感謝申し上げますとともに、今春の東京遠征の際に開催していただきました激励会の報告を致します。

時は三月三十一日、東京・新宿区役所近く。仙台からこの会のために萩原邦明コーチ（高4回）がお越しになり、

北陵会現会長佐藤宣男さん

(高16回) (常日頃から体育館へ足を運んでいたいただいており、今回も遠征に同行していただきました。)をはじめ、写真に写っております諸先輩方に囲まれながら、楽しくも勉強になる時間を過ごしました。長年コーチを務めた萩原さんや佐藤忠男先生とのエピソード、強かった時代、少数精鋭で頑張った時代、好成績は残せなかったものの厳しい練習に耐え抜いた時代、それぞれのお話が今現在の状況にあてはまり明日への活力になりました。また、会の途中では今後の活動のためにと部に寄付金までいただきました。



一高・二高 両校 応援団長五十年来 の友情と連帯

鈴木 壮夫 (高11回)

まずは掲載写真、五十年振りに再会した高十一回生の両校応援団長をご覧いただきたい。右が我等が二高の善積康郎氏、左が一高の後藤克紀氏

時は隔ててもなお、熱く燃える先輩方のバスケットボール部に対する思いを後輩に伝え、頑張っていきたいと思えます。

である。高十一回生は五十年前、三年生に進級した。今春の同期会・東京ピンピン会開催に当り、両校柔道部員の絶えざる交友がキッカケとなり後藤団長より我等に熱きメッセージが寄せられた。

「私が仙台を思い出す時はいつも評定河原球場での貴校との定期戦です。その中で一番の思い出は試合終了後の校歌斉唱とエール交換です。在学中は毎年負けておりましたので、あなたふと あなうるはし」と貴校が先に斉唱し、

いただき、評定河原球場の光景を胸にして、斉唱していただけだと思います。」

以上のメッセージを私が四十人の参加者に伝え、定期戦での若き己れを思い出した者も多かった。校歌斉唱の後、善積団長のリードでピンピン会としては初めてフレイ・一高と熱きエールを贈った。その日から、ほぼ二ヶ月後の四月一日、桜が満開の埼玉県・川越市に両校応援団長にお越しいただき五十年振りの再会を果たした。お二人は

た。そして、一生を通しての好敵手一高の存在にあらためて感謝した。昨秋母校訪問時、校長柏葉浩明氏から応援団長復活をお聞きし、独立心がよく気丈そうなる多くの女子生徒達ともお会いし、「新生二高」への取り組みに安心と頼もしさを感じた。ともにともに いそしまむ いざ いざ 怠らず」校歌の最終節に支えられる日々が続いていることに心から感謝しております。

中学三十九回卒 さんきゅう会

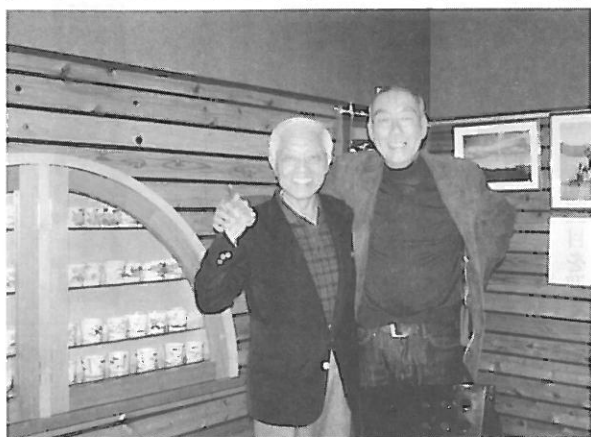
丸谷 孝郎 (中39回)

謹みて申し上げます。

師走の候を迎えました。

母校ますます御隆盛の趣心からお慶び申し上げます。

さて、さんきゅう会(仙台二中39回卒)東京支部の会合を忘年会を兼ねて暫くぶりで平成十九年十一月二十日(火)銀座入母屋にて開催しました(幹事神谷)。在京(近郊を含む)方々に案内状を発送致しましたが結局は山川民夫(学



その喜びの歌声が夕闇せるスタンドに響き渡ったこと今でも胸に沁みこんでおります。負けた悔しさを忘れさせてくれるような、実に清しい歌詞とメロディーでまさに青春の思い出そのものです。東京ピンピン会でも校歌が歌われることと思いますが、今回は懐かしがっている者がいることを思い起こして

士院会員 東大名誉教授) 初め常連の七名のみで年毎に減少しての参加者でした。人間千支を七回も迎えてまもなく米寿を迎える年ともなればどこか支障するもの七名の出席でも満足しなければなりません。席上物故者の名簿と生存者の名簿が配布され物故者の冥福を祈り生存者のますますの御健祥を祈った次第です。また仙台二高男女共学初入学式の女子七〇人を含む三二二名の記事が紹介され伝統へ



さんきゅう会

(仙台二中39回)

東京支部会合

平成十九年十一月二十一日

於銀座 入母屋

神谷 弘

矢嶋 一郎

丸谷 孝郎

熊谷 芳博

笠松 勲

堀田 満

山川民夫

新風吹き込む模様と同窓会長西沢潤一首都大学東京学長の祝辞御感慨亦格別に複雑な気持ちで回覧しました。母校のめざましい大学進学状況や各人の近況、在学中の思い出等その話題で約三時間の会合は盛會裡に再会を約して散会となりました。

当日撮影した写真を同封します。よろしく御笑納ください。

先づはお知らせまで

会員短信

仙台一高と二高の名歌を 尋ねて(その二・応援歌)

高7回 小出 精 あきら

――前号では両校の校歌はどちらとも一、二中兼任教員の岩城寛先生が作曲されたものであることを記した。――

(2)両校の名応援歌の中にも又、同一の作曲者による歌が。

二高の「みなぎる闘魂」

(昭和三十一年に生れた歌で、作詞は、国語担当の渡辺義夫先生)と一高の「勝利の歌」(昭和四十年の作)とがそれぞれ、両方とも二中四十七回生の仁科博之氏(のちに二高第十五代校長)が作曲された歌である。

仁科氏は旧制二高、東北大理学部時代を通じて音楽部でも活躍され、東北大男声合唱団では初代指揮者を務められた。また昭和二十四年に仙台市内有数の合唱団であるローゼンシュタットコールを設立し、昭和三十一年からは常任

指揮者に就任、現在も活躍中である。

仁科氏は県北の高校在職中の二十才台のときに渡辺先生に依頼されて、かの名曲「みなぎる闘魂」を作曲された。そして昭和三十五年からは仙台一高に勤められ、その時、一高の国語担当で、「みなぎる闘魂」のことを聞き知っておられた佐藤彰先生から依頼されて同先生作詞の「勝利の歌」に曲を付けられたとのことである。

「みなぎる闘魂」は東京六大学等の応援歌にも匹敵する秀れた曲だと思う。一方の「勝利の歌」は、一高が対二高戦で勝ったときだけ「一高一高我ら一高、我らは歌う希望の讃歌」と格調高く唱われるもので、二高の凱歌と同様の歌であり、これ又、戦後の

会報作成にご協力を

仙台二高同窓会報は、年二回発行しています。同窓生の諸兄の動向や現役生徒たちの活躍ぶりなどを紹介してきております。

会員個人の寄稿はもちろんのこと、卒業回期の集まりの様子などをもっともっと掲載できればと考えます。仙台を離れた方々の支部だよりを必ず書いていただくようにお願いします。また、卒業回期ごとの集まりの様子も、是非ご投稿下さい。

昨年度から少しずつ、編集の仕方を変えてきていますが、まだまだ満足のできるものにはなっておりません。前にもお願いしましたが、現在は二名の理事と二名の教師(会員)が編集にあたっています。在仙の会員で会報の編集に興味のある方で、お手伝いをいただける方を募ります。

次号の原稿は、十月末を締め切りといたします。

会報を盛り上げて下さい。

よき時代に幾つかの大学で生れた名生歌とも共通した雰囲気を感じさせてくれる名曲だと思ふ。

尚、一、二高ともにその後も幾つかの名応援歌が生れてゐる。私は長年定期戦に通っている内に、それらの歌も皆唱えるようになった。どれも口ずさむほどに元気を湧き立たせてくれる名歌である。

(3)旧制高校の歌との関連

①イ、「凱歌（眺かけて…）」

の曲は、旧制七高造士館（鹿児島）の創立十四周年記念祭歌「北辰斜めに」（大正四年）が元歌である。

私は昭和三十年代に甲子園予選東北大会のときに、福島県の高校の応援席から、凱歌（眺かけて）と殆んど同じ曲の歌が聞こえて来るので驚いたことがあったが、そのやがて数年後に入手した一枚の寮歌集のレコードを聞いていて「北辰斜めに」に巡り会って謎が解けた。今でも開かれてゐる「仙台寮歌の集い」（たいてい秋に仙台ホテルにて）では七高OBの人達が毎年必ず唱うので、興味ある方は一寸覗いてみられるとよいと思ふ。

う。

—以下の文は仙台一高三十二回生で同校の応援団幹部長として活躍した丹治道彦氏（東北工大准教授）の詳しい調査文献から引用させて頂いた。—

ロ、「対一高戦歌（古き都の……）」の曲は旧制一高陸上運動部々歌「柏の旗の行くところ」が、又「北斗の光」は旧制二高尚志会応援歌「大空ひたす」の曲が、それぞれ元歌だとのことである。尚、両方の曲とも盛岡一高の応援歌にも用いられているそうである。

②

ストームの歌としてお馴染みの「肥馬むち打たせ」、戦い勝てり」は一、二高ともに歌い、又、三高でも歌っているしさらには県内の幾つかの高校においても、以前から応援歌として愛唱されているのだが、この歌は旧制二高の対仙台工専野球戦凱歌（大正十一年度）をそのまま歌い継いでいるものである。

③

仙台一中（一高）の応援歌では、応援歌一番「山も怒れば」は旧制一高の明治四十一年記念祭歌「としは

やすでに」が、同じく二番「玲瓏の山河の姿」は旧制二高の大正十二年ボート部の「むかし曰う北方の強」が、又同じく三番「芙蓉万里の風を待ち」は旧制二高に於ける学科対抗水上運動会の際の凱歌の、それぞれ曲が元歌だとのことである。（以上丹治文献より）

かように旧制高校の歌は広く全国に亘って旧制中学校の歌に影響をもたらしていたことが窺えるが、それらの名歌のメロディーを（但し時と共に、或いは学校毎に少しずつ変化が見られるものの）熱く唱い継いでいる高校生達が今もいることは嬉しいことだと思ふ。

【注1】(2)の中の「勝利の歌」発表当日の様子については、当時一高応援団副団長として活躍した山口直也氏（一高十九回生）による「仁科先生自らがステージに上って全校生に歌唱指導された」との鮮明な思い出話を、前述の丹治氏を通じて伺うことができた。両氏に感謝申し上げる。

【注2】二高の代表的な応援歌の一つである「雨か嵐か」が、甲子園での対慶応高戦の際、折からの雨の中にも拘らずスタンドで毅然として歌い続けられ、二高の勝利を力強く後押しし、翌日の全国紙にも取り上げられたことは未だに記憶に新しく、19年春号の麻喜宏雄氏の講演の文中にも詳しい。しかしこの歌の作者等

については残念ながら私はまだ情報を得ていない。又(3)の①に挙げた他の応援歌の作詞者についても同じである。ご存知の方はぜひ教えて頂きたいものだと思う。

【付記】以上の稿を綴り終えたあとで、二高同窓会事務局長の佐々木文朗氏（高二十二回）から、金港堂出版刊・村上辰夫氏著の「峰秀で水澄みたり」の存在を教わり、読んでみるとそこには作詞者大関鶴磨先生と作曲者の岩城先生の名が詳しく記されていて、とても興味深い。村上氏によれば大関先生は代々すぐれた国学者の家系にあり、開成所で国文学を修められた方であることも知った。



二高全景：四角屋根は体育館、下方の楕円の建物は、北陵館

その本の中で、岩城先生が「（八十三才で）眠るが如く急逝される前の晩、入浴のあと一杯のブドウ酒を楽しみ床に就かれた」と記されているのを読んだとき、私は二高校歌にワインカラーを感じていたことを考え合わせ、感慨深い想いを抱かされたのであった。

又、先生の枕元には愛読の聖書と讃美歌の本が置かれてあったとのことである。

岩城先生が亡くなられたのは昭和二十二年七月だそうで、仙台二中が甲子園で準決勝進出という大快挙を成し遂げたほんの一ヶ月ほど前のことなのであった。

仙台二高剣道部 OB会の紹介

菅野 敦

(高41回)

OB諸兄におかれましては益々ご健勝のことと存じます。

この度は同窓会報を通じて剣道部OB会の成り立ちと現状について紹介させていただきます。仙台二高には長らく剣道の先生が存在していなかったと認識しておりますが、昭和59年に河岸敏郎先生が赴任

されて以来、大野剛先生現在泉高校教頭、南雲芳則先生といずれも剣道七段の先生



を顧問としてお迎えしご指導をいただいて参りました。剣道部OB会は河岸先生のご提案により、各々の先生の教え子を中心に平成九年八月に正式に旗揚げしました。以後、一月一日午後からの元旦稽古と八月のお盆前後の土曜日にこなされる現役生との稽古会及びOB総会、懇親会を通じてOB同士あるいは現役部員との交流を深めてまいりました。

さて、剣道部OB会の結成以来、一貫してご指導を賜って参りました河岸先生が本年の三月をもって亘理高校校長を最後に定年退職されました。剣道部OB会としましては、先生のこれまでの二高剣道部並びに同OB会に対するご指導への感謝の気持ちを込めて、来る八月十六日(土)におこなわれる稽古会並びにOB総会の後に、市内にて「河岸先生に感謝する会」を開催する予定であり、現在準備を進めているところです。また、剣道部OB会の結成から10年が過ぎ、最も年長の会員も40歳を過ぎました。これまでの活動では主に稽古を通じて現役生に貢献することを目指して

同窓生からの寄贈本の御紹介

●名匠精華(5冊)

●週刊朝日ビジュアルシリーズ

『日本百名山』(全50巻)

二〇〇七年十二月

青山 史朗(中40回)様

阿部 孝一(高26回)様

他8名(高25回)様

会報への投稿のお願い

「会員相互の情報交換の場」としての同窓会報を充実させるために、会員諸兄の寄稿をよろしくお願い申し上げます。同期の方々の集まりの様子、地区・職場毎の集まりの様子などの投稿を期待します。尚、投稿の中には、事実誤認、誹謗・中傷等がある場合は、掲載できない場合があります。

匿名は受付しません。

尚、次号は平成二十年十月末日が原稿〆切です。事務局あて送付下さい。

◎仙台二高剣道部事務局

手嶋泰伸

TEL&FAX

022-1372-6564

e-mail:

2kokendo@googlegroups.com

日向寺 太郎くん
(高36回)を語る卓球部 吉田 健郎
(高36回)

「カツ、カンコン、カンコン、カンコン」と響き渡るラリー。今でも臉を閉じると、あの音と匂いを思い出します。

僕らと彼の出会いはい、現校舎が建替えられる前の旧校舎に遡る。隣の剣道部の胴着の匂いが染み付き、窓には日光が差さないよう目張りがしてあった。暗くもどこか懐かし卓球場が舞台だ。当時の宮城県の高卓球界は、仙台南や向山といった公立高校が上位を争うような時代で、今や全国レベルの仙台育英高校が本気で挑んでくるのはその後のこと。

卓球部での思い出は、とにかく走ったこと。牛越橋・亀岡八幡・工芸部とコースを変えては毎日走った。足腰は鍛えられたはずだが、戦績はというと、たいしたことはなく、最後の総体は県でベスト16という、とても記憶にも記録にも残らない中途半端なものだった。でも、中学時代、無名選手ばかりの雑草軍団にしてみればなかなかだったのかも知れない……。三年となり、九名になった僕らは、その後順当に(?)大学へと進んだ後、バブル絶頂の売り手市場にも恵まれ、皆、思い思いの企業へ就職した。そして、卒業以来、毎年、正月二日には欠かさず国分町に集まり、妻から「良く続くわね」とひやかされるながらも、毎年ほぼ同じメンバーで、同じ話題を肴に酒

を酌み交わしている。その後、バブル崩壊に翻弄されながらも、なんとか生き残っていることをお互い確認しあうかのようにな……。

でも、彼だけは違った。一浪のち日本大学芸術学部映画学科に進み、卒業後は同じ映像でも、TVとかCMではなく、およそ安定とは無縁な映画の道に進んだのだ。彼の名は「日向寺 太郎(ひゅうが たらう)がじ」。

「彼はどうしているのか?」というのが、正月二日の僕らのあいさつ代わりになった。

そんな彼が、2005年、ついに監督デビューを果たした。タイトルは『誰がために』。社会で多発する少年犯罪をベースに生と死に向き合った硬質な作品だ。主演は浅野忠信、今をときめく小池徹平も映画デビューと聞いて正直驚いた。今や全国に散らばっている卓球部の仲間が、それぞれ映画館へと向かった。映画が好きで、高校時代から名画座に通っていた彼が、純粹に夢を追いかけて、それを実現したことが何よりうれしく羨ましく、そして誇らしかった。そして今夏、彼の二作目が全国で公開される。作品は、あの野坂昭如原作の『火垂るの墓』の実写版だ。レビューには、「戦渦の中で過酷な運命を迎える兄妹の姿を通し、戦争が市井の人にもたらす悲惨さを真つ直ぐに描く」とある。兄妹の亡くなってしまいう母親役に松田聖子、二人をいじめ親戚の未亡人役に松坂慶子が扮するという。驚きを超えた……。

今年の正月2日は、卓球部の一級上の先輩方と合流した。僕らと違って、インターハイ

出場も果たした格の違う先輩達である。が、話題は、今や僕らの誇り、日向寺太郎に集まった。一作目は先輩方もみんな見ていた。チケットを何枚買ったか自慢しあった。五〇枚買って周りに配った先輩もいた。皆、日向寺太郎に、現実とひきかえにあらめざるを得なかった夢を、託しているようだった。すこい奴だ。あの薄暗い卓球場で、無心に卓球に打ち込んでいた坊主頭(今でも坊主みたいだが)の青年は、自分の夢を貫き通す強靱な意志を秘めていたのだ。待望の二作目『火垂るの墓』は仙台では利府と仙台のムービックスで公開されるとのこと。来年の一月二日は、この話題で持ちきりだろう。

日向寺 太郎
(ひゅうが たらう)

1965年、宮城県生まれ。仙台南高(高36回) 日本大学芸術学部映画学科卒業後、黒木和雄、松川八洲雄、羽仁進監督などの作品に助監督として参加。

97年、中国の画家・方力鈞の個展を見て表現の世界から現代中国を描くドキュメンタリーを企画。翌年、『黒木和夫現代中国アートの旅/前後編』(NHK)を演出する。

黒木和夫監督の「スリ」(00)、「美しい夏キリシマ」(02)には企画段階より関わっている。05年、「誰がために」で監督デビューを果たし、第9回みちのく国際ミステリー映画祭2

005 in盛岡で新人監督奨励賞を受賞。08年には2本目の劇場用映画監督作となる野坂昭如の直木賞原作『火垂るの墓』を公開予定。編著に『映画作家黒木和雄の全貌』(フィルムアート社)がある。

「火垂るの墓」公開に寄せて
監督 日向寺太郎

原作「火垂るの墓」を読んだのは、もう二十年以上も前、大学生の頃だった。古本屋で何気なく手に取った文庫本を読み始めると、人間の本性を迫るような冷徹な目と野坂さん独特の文体に魅了された。今回の映画化の話は、私の師である黒木和雄監督で企画されたというものであった。黒木さんが急逝し、お話をいただいたが、一旦はお断りした。戦争を体験していない私が描くのは不適当と思ったからだ。もちろん、小説も映画もフィクションであり、当事者でなければ描けないということはない。むしろ、より大切なのが、想像力だと思ってきた。

だが、今回は私にとって荷が重過ぎた。長く読み継がれてきた名作であり、評価の高いアニメ作品があることもプレッシャーになった。

一度はお断りしたものの、感動した原作でもあり、迷い、悩み続けた。その間、プロデューサーの鈴木ワタルさん、深田誠剛さん、カメラマンの川上皓士さんが、やろうと励ましてくれた。

美術監督(今作では美術監修)の木村威夫さんにもご相談した。木村さんは「戦争体験者にとって、あの時のことを再現しても意味がない。再現ではなく、表現するんだ。体験の有無は関係ない」と言われた。今になると、励まし以上に、もっと厳しい言葉だと気づくが、その時は背中を押してくれたように感じられた。さらに、私の背中を押してくれたのは、加藤典洋さんの以下の文章である。

戦争体験をどう伝えるか。これはいっただけみればリレーのバトンタッチのようなものだ。とここでこの設問は、バトンを渡す側からの問いとなっている。こういう問いは、もう(死んで)後進に道を譲った方が、いいのではないだろうか。なぜなら、伝える人はこれから皆死んでいく。いま問題なのは、むしろ、戦争体験をどう「受けとる」か、というバトンを受けとる側のインシアチブだからである。(加藤典洋「石の前に立つこと」『この時代の生き方』所収)

そうだ、清水の舞台から飛び降りるつもりで、どう「受けとる」かを「表現」してみよう。それは、野坂さん、黒木さんと正面から向き合うことでもあった。そして、脚本家の西岡琢也さんとの苦しくとも楽しい打ち合せが始まった。

猛暑の中での撮影、長期にわたる仕上げを共にした全てのスタッフ、キャストの皆様、上映をいち早く決めてくださった岩波ホールをはじめとする劇場関係者の皆様に心から感謝します。

平成20年度 大 学 入 試 合 格 者 数 (延べ人数)

国立大学

大 学 名		計	現役生	浪人生
旭川医科大		3	0	3
北 海 道 大		13	5	8
北教大札幌校		1	1	0
弘 前 大		1	1	0
岩 手 大		4	2	2
東 北 大	文	8	7	1
	法	8	4	4
	経	15	7	8
	教	3	2	1
	理	10	3	7
	工	56	28	28
	医/医	8	3	5
	医/保	1	0	1
	歯	4	1	3
	薬	5	5	0
	農	9	3	6
小計		127	63	64

大 学 名	計	現役生	浪人生
宮城教育大	7	4	3
秋 田 大	6	1	5
山 形 大	15	8	7
福 島 大	1	0	1
茨 城 大	2	0	2
筑 波 大	2	1	1
宇 都 宮 大	1	0	1
埼 玉 大	2	1	1
千 葉 大	4	3	1
電気通信大	2	1	1
東 京 大	文一	2	1
	文二	3	2
	理一	3	2
	理二	3	2
	小計	11	7
東京学芸大	4	2	2

大 学 名	計	現役生	浪人生
東京芸大	1	1	0
東京農工大	3	2	1
一橋大	4	2	2
横浜国立大	7	6	1
新潟大	6	1	5
金沢大	2	0	2
信州大	3	2	1
静岡大	1	0	1
京都大	6	4	2
大阪大	1	0	1
九州大	2	2	0
国立大学合計	242	120	122

私立大学

大 学 名	計	現役生	浪人生
岩手医大	3	1	2
東北学院大	26	11	15
東北薬科大	6	2	4
自治医大	2	0	2
獨協医大	1	0	1
文教大	1	0	1
青山学院大	2	0	2
桜美林大	1	1	0
学習院大	4	2	2
北里大	7	1	6
慶応大	17	6	11
國學院大	2	0	2
国際基督教大	1	0	1
駒沢大	3	3	0
芝浦工大	14	2	12
上智大	5	1	4
成蹊大	5	1	4
成城大	1	1	0
玉川大	1	1	0
中央大	36	12	24
東京工科大	1	1	0
東京電機大	3	0	3
東京農大	5	0	5
東京薬大	2	0	2
東京理大	43	8	35

大 学 名	計	現役生	浪人生
東 邦 大	2	0	2
東 洋 大	2	0	2
日 本 大	7	4	3
法 政 大	9	2	7
星 薬 大	1	0	1
武蔵工大	3	0	3
武蔵野音大	1	0	1
武蔵野大	1	1	0
明 治 大	26	1	25
明治学院大	4	1	3
立 教 大	6	1	5
早 稲 田 大	30	15	15
神 奈 川 大	3	1	2
神奈川工科大	1	0	1
関東学院大	1	0	1
中 部 大	2	0	2
豊 田 工 大	1	0	1
同志社大	1	0	1
立 命 館 大	14	3	11
関 西 大	2	1	1
近 畿 大	1	0	1
関西学院大	1	0	1
産 業 医 大	1	0	1
私立大合計	312	84	228

公立大学

大 学 名	計	現役生	浪人生
札幌医科大	1	1	0
宮 城 大	2	2	0
福島県立医大	3	3	0
高崎経済大	2	0	2
首都大東京	2	1	1
神奈川保福大	1	1	0
横浜市立大	1	0	1
名古屋市立大	1	1	0
京都府立医大	1	1	0
公立大学合計	14	10	4

大 学 校

大 学 名	計	現役生	浪人生
防衛医科大学校	4	1	3
防衛大学校	4	3	1
大学校合計	8	4	4

※2008年 3月31日判明分

現役生徒の活躍

鈴木裕太君 (三年)

「国際化学オリンピック」

日本代表に決定

「国際化学オリンピック」は世界の若者が頭脳を競う今年で40回目を迎える大会です。

これに出場する日本代表4名のうちの一人として鈴木君が選ばれました。昨年夏の「全国高校化学グランプリ」で優秀な成績を収めた22名(二高からは鈴木君、日置君の二名)の中から、日本代表選考のための5時間にもわたる実験・筆記試験を乗り越えての快挙であります。本大会は七月十二日(土)から二十一日(月)まで、ハンガリーのブダペストにて開催され、世界70カ国以上の国々から二五〇人ほどの優秀な高校生が集まり、化学の実験や筆記試験を通して金メダル獲得を目指します。

同窓生の皆様、鈴木君への応援よろしく願っています。(化学オリンピックについて)の詳しい内容は国際化学オリ

ンピックホームページ

(<http://icho.csi.jp/>) をご覧ください。

英国イートンカレッジとの国際スポーツ交流について

今年度本校では特色ある教育活動の一環として、今年8月に英国屈指の名門パブリックスクールであるイートンカレッジとの国際交流事業を、サッカー部の親善試合を中心におこないます。日程は左記のとおりです。

8月23日(土)

宮城スタジアム

11:00 〃 仙台二高 対

イートン校(Aチーム)

14:00 〃 仙台二高 対

イートン校(Bチーム)

8月23日(土)

〃 8月24日(日)

ホームステイ

8月25日(月)

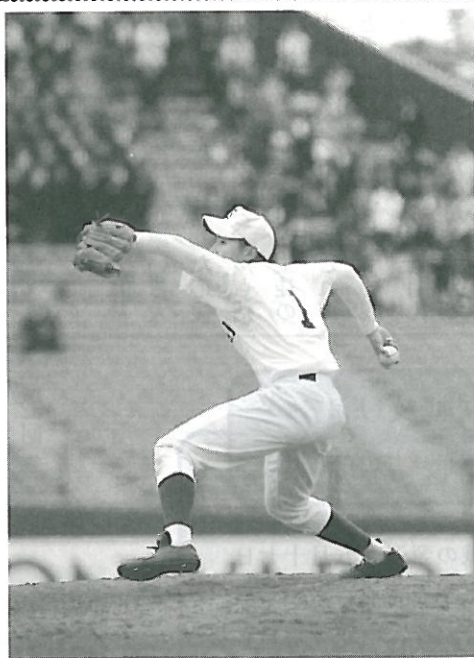
仙台二高始業式にて、生徒と交流

以上、お知らせいたします。

三年ぶりの優勝、

勝利の歌は声高らかに

第六十三回野球定期戦開催



五月とはいえ肌寒さの残る中、第六十三回野球定期戦が、五月十日にクリネックススタジアム宮城で開催されました。

二年続けて優勝を逃しているその悔しさを晴らすべく、また、男子だけの最後の学年である三年生の有終の美に華を添えるべく、伝統のこの一戦に臨みました。

試合は、始球式の後、十三時〇六分に開始されました。先攻めの二高は、初回二死から失策と二つの四球で満塁とし、六番田中の二ゴロが敵失となり一点を先制しました。二回の攻撃も二死から、安打と二つの四死球で満塁とし

したが、後が続かず無得点。立ち上がり大きなチャンスを手放し、嫌な流れになるのかという心配が出かけた三回に追加点の機会が訪れました。この回先頭の五番高橋(三年・主将)が右翼線に二塁打し、その後暴投と四球を得て、無死一・三塁。七番千葉(三年)の三振の後、八番佐藤(三年)がスクイズを決め一点を追加。なおも二死二塁で九番今井(三年)が左翼線に二塁打を放ちさらに一点。続くトップの土屋(三年)が左前安打で続くも、二走今井が本塁で憤死し、この回は二点止まりでありましたが、あらためて二高ペースを作るいい形となりました。

二高に來た流れをより本物の力投でした。昨年（三年）の雪辱を果たさんとばかりに二年連続のマウンドに上がり、七回降板までに、三安打、四球一、

中盤六回に五番高橋の二点

五奪三振と安定した投球を披露し、その好投に應えるようにバックも堅実な守備で田中を支え、一高に付け入る隙を与えませんでした。



適時打で五対〇とすると、八回からマウンドに上がった二番手須賀（三年）が横手投げから持ち前の打たせてとる投球術を見せ、二イニングをそれぞれ三者凡退とし、二年連続で味わった九回の悪夢を完全に払拭してくれました。終わってみれば完封勝利。これほどまでに見事な勝利は久々でした。

野球部員の奮起を促してくれたのは、左翼スタンドに陣取った、応援団長が率いる大応援団でした。復活した応援団幹部の采配のもと、声も枯れよとばかりに、男女生徒の大声援。ベンチにいてどれほど勇気づけられたでしょうか。一枚岩となった応援に後押しされて頑張れたのが今大会でした。優勝回数は共に二十七回となりました。来年度以降、さらに新しい定期戦の歴史を作るべく部員一同精進していきたいと思います。

今大会の準備にご尽力くださいました皆様、スタンドで最後まで熱心に応援してくだ

さった卒業生をはじめとする皆様、陰ながら野球部を支えてくださいました皆様、すべての方にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

（硬式野球部長
高32回
和賀久佳）

三部定期戦及び 軟式野球定期戦結果速報

今年は硬式野球定期戦の翌週、五月十七日（土）に行われました。各部熱戦、激戦が展開されました。

試合結果

バレーボール	二高 3-0	一高	勝ち
バスケットボール	二高 64-62	一高	勝ち
柔道	二高 3人残し		負け
軟式野球	二高 8-6	一高	勝ち



臨時評議員会 報告

去る平成二十年五月十四日
(水) 十八時三十分より北陵
館に於いて臨時評議員会が開
催されました。

①開 会

②挨 拶

同窓会副会長 佐伯康全

③議長選出 高石評議員選任

④協 議

一号議案

理事選考委員会原案の審議
・朝倉理事選考委員会委員長
より、経過・選考基準につい
ての資料の提示・説明があり、
新理事候補者が具体的に示さ
れた。提示された案に対し、
各回期の評議員より多数の活
発な意見が出されたが最終的
に、次回五月三十一日の定例
評議員会で継続審議すること
になった。

その他

英国イートンカレッジとのス
ポーツ交流について
イートンカレッジからの要

請を受け、学校行事の一環と
して本年八月にイートンカレ
ッジを仙台二高に招きサッカ
ー親善試合を行うが、これにつ
いて学校から同窓会に対し、
理解と協力を求める旨の文書
が提示された。時間の制約に
より、この件については次回
三十一日の評議員会で審議す
ることとなった。

⑤閉 会

今春の人事異動

▼退職の先生方▲

柏葉 浩明 校長
小野 明 教諭(数学)
浅沼 一夫 教諭(国語)
平川 弘二 事務部長

▼転任の先生方▲

佐々木文朗 教諭(英語)
(名取北高)
熊谷 佳二 教諭(理科)
(宮城野高)
藤倉 聖 教諭(体育)
(スポーツ健康課)

岡 達三 教諭(社会)
(高校教育課)

高橋 美紀 主事
(中津山二小)

遠藤 和也 技師
(塩釜女子高)

▼退任の先生方▲

筒井 保子 代替事務職員

矢本一中(常勤講師)

三嶋 廣人 非常勤講師(理科)

迫桜高(新採用)

▼赴任された先生方▲

庄司 恒一 校長(理科)

(研修センター)

狩野 順一 事務部長

(仙台教育事務所)

木村 篤史 教諭(国語)

日野 慎一 教諭(英語)

(宮城広瀬高)

若林 春日 教諭(理科)

(宮二女高)

黒崎 顕治 教諭(体育)

(白石工業高)

岩淵 伸夫 教諭(数学)

(泉館山高)

名倉 洋 教諭(社会)

(多賀城高)

加藤 直子 主査

(県図書館)

千坂 民美 主事

(育休復帰)

清水 茂 主任技師

(宮城野高)

鈴木 由佳 非常勤講師

前号のお詫びと一部訂正

十九年度春季号掲載内に訂

正があります。

計報覧の

西川十朗様は西川十郎様で

した。

お詫びと共に訂正させて

いただきます。

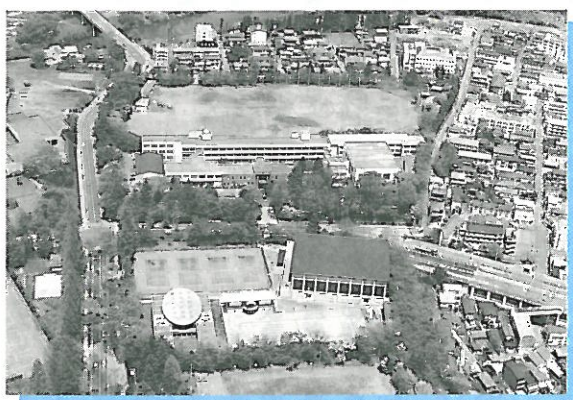


「鎮魂像と旧校舎」(高26回の卒業アルバムの写真より)

佐藤 健二(旧姓・貝山) 高26回卒

会 員 計 報

昭和62年	2/17 佐藤 梧郎殿 中22回	6/18 千葉 正彦殿 中37回	6/27 菅井 賢吾殿 中44回	3/1 日野 正芳殿 中40回	2/24 高橋 良勝殿 高10回	2/19 菊地 理殿 中41回
昭和63年	今野 旦殿 中29回	6/24 菅井 賢吾殿 中44回	3/26 三浦 彰殿 高3回	4/16 高橋 義之殿 高6回	4/27 永澤 浩殿 高1回	5/4 河合 正規殿 中46回
平成2年	阿部 良彦殿 高32回	7/13 長井 滋殿 高1回	4/27 永澤 浩殿 高1回	5/4 菊池 文彦殿 中44回	5/6 菊沢 健生殿	
平成3年	4/2 津野尾 一郎殿 中26回	8/16 都澤 良造殿 中47回	8/18 鈴木 治夫殿 高17回	8/30 澤田 剛殿 中39回	9/12 守谷 俊夫殿 中27回	
平成5年	3/6 佐藤 功殿 高2回	10/16 樋口 正義殿 中33回	10/18 鈴木 直俊殿 高1回	10/31 黒石 英城殿 中47回	11/9 金沢 定夫殿 中36回	
平成13年	北川光二郎殿 中23回	10/16 樋口 正義殿 中33回	10/31 黒石 英城殿 中47回	11/10 佐藤 泰基殿 中39回	11/21 荒川源一郎殿 中40回	
平成17年	2/17 山田 敏殿 中38回	10/16 樋口 正義殿 中33回	10/31 黒石 英城殿 中47回	11/10 佐藤 泰基殿 中39回	11/21 荒川源一郎殿 中40回	
平成18年	8/4 伊藤 茂雄殿 中39回	11/9 金沢 定夫殿 中36回	11/10 佐藤 泰基殿 中39回	11/21 荒川源一郎殿 中40回	12/3 丸山 征寿殿 高12回	
	9/1 武田 修三殿 中34回	11/10 佐藤 泰基殿 中39回	11/21 荒川源一郎殿 中40回	12/3 丸山 征寿殿 高12回	12/5 今野 三郎殿 中41回	
	守谷 新一殿 中29回	12/3 丸山 征寿殿 高12回	12/5 今野 三郎殿 中41回	12/13 萱場 嘉夫殿 中36回	12/15 田中 宏明殿 高12回	
	6/ 近藤 勝紀殿 高14回	12/13 萱場 嘉夫殿 中36回	12/15 田中 宏明殿 高12回	12/26 今村 敏殿 中44回	12/26 今村 敏殿 中44回	
	7/10 設楽 信爾殿 中29回	12/26 今村 敏殿 中44回				
	11/25 宮崎元太郎殿 中30回					
平成19年	1/6 井上 康右殿 高13回	平成20年	1/1 鈴木 利也殿 中46回	1/16 菅原 久吾殿 中40回	1/22 岩本 正次殿 中40回	1/25 古澤 良一殿 高5回
	1/15 蒔田 光郎殿 高5回					
	2/2 内崎 七郎殿 高1回					
	3/5 福本 文雄殿 中36回					



編 集 後 記

共学問題が終息したわけではございませんが、今回投稿がなかったものですのでひとまず関連記事はお休みさせて頂きました。

本校も女子が二年生までとなりましたが、これまでと変わる事なく野球定期戦がにぎやかにおこなわれました事、記事から読み取って頂けたでしょうか？

又現在の二高の全景を航空写真で紹介いたしました、在りし日々を懐かしく思い起して頂けたら幸いです。

初めての会報作りで全く自信ありませんでしたが、先輩や校内幹事の先生方に助けられホッとしております。いたらぬ点をご寛容の程、心より願ひ、結びとさせて頂きます

(高12回 米竹 隆)